

水草研究会第23回全国集会（神戸）報告

第23回全国集会は8月25～26日の両日にわたって神戸市を中心に開催された。8月最後の週末にもかかわらず全国各地から98名の参加者があり、盛会裡に会を終えることができたことを報告しておきたい。

25日は市立農業公園『ワイン城』を会場に総会、研究発表会、懇親会が開催された。研究発表は以下の11題であった。

1. 神谷 要（米子水鳥公園）：山陰におけるボタンウキタサの越冬について
2. 山崎真実¹・高橋英樹²・佐々木純一³（¹北大農学研究科・北方資源生態学講座；²北大総合博物館；³雨竜沼湿原を愛する会）：北海道におけるコウホネ属植物の形態・分類学的検討
3. 山内香澄・菊池俊一（北大農学研究科・森林管理保全学講座）：北海道美々川におけるオランダガラシ (*Nasturtium officinale* R. Br.) の生育環境について
4. 桑原明日香¹・塚谷裕一²・長田俊行¹（¹東京大学理学研究科；²基礎生物学研究所）：水中と陸上で異なる形の葉をつける水草について—水草の生理学—
5. 須賀瑛文（岐阜県可児市）：危機迫るため池産シヤジクモ類の現状
6. 梅原 徹（環境設計（株））：大阪で絶滅した水草の標本採集年代
7. 松井宏明（（株）環境調査技術研究所）：柿田川における沈水植物の分布と流下
8. 国井秀伸（島根大学汽水域研究センター）：汽水域の水生植物コアマモの成長
9. 中村圭吾（土木研究所水循環研究グループ）：霞ヶ浦における湖岸植生帯復元のとりくみ

10. 桜井善雄（応用生態学研究所）：ダム湖における沿岸帯環境の創出—わが国における最近の状況—

11. 角野康郎（神戸大学遺伝子実験センター）：兵庫県のため池の水草概観—エクスカーションの案内をかねて—